



櫻井市議 振興局交渉へ

「健康保険証廃止」の中止を求めて行動

とんでもない！保険証廃止

7月2日、改正マイナンバー法などの関連法案が可決しました。

現在の「健康保険証」を2024年秋で廃止とするこの法案には、自民党・公明党・日本維新の会・国民民主党が賛成し、日本共産党は反対しました。

「マイナ保険証」を巡っては「別人情報の紐づけ」「本人を認識しない」など多くの問題が起きています。

その中で成立したこの法律によって、保険料を支払って

ながら保険医療を受けられないケースや薬の処方ミスなどが危惧されています。

また、「マイナ保険証」を取得しなければ、「資格確認書」を本人から請求しなければならぬなど、「マイナカード」の事実上の強制が生まれます。

多くの国民が、こうしたことに不安を大きくしています。

先日発表された世論調査では、「保険証の廃止」という政府方針に対して、実に77%の回答者が「廃止時期の延期」「廃止方針の撤回」と答え、「予定通り廃止すべき」の21%を大きく上回りました。

「国民皆保険」の要である「健康保険証」は、現行のままでも不自由はあり

ません。それどころか存続することが何より安心です。

多くの国民の強い願いは政府と自公・維新・国民四党が強行しようとする「健康保険証廃止」「マイナカードの強制」を中止させることです。

政府の姿勢許せない 私にも署名用紙を！

そこで、日本共産

党夕張後援会では、「健康保険証廃止の中止を求め、マイナカード強制に反対します」署名の取り組みを開始し、20日には南清水沢において街頭宣伝と署名活動を行いました。

約1時間の行動で、32筆の署名が集まりました。

「マイナンバーカードは作ったけれど、まだ使っていない」「マイナンバーカードは夫婦ともにまだ作っていない。だって、よくわからない。だって、怒りの声ができる」という怒りの声も寄せられました。

知人宅を回って署名を訴えた後援会員には、「これだけ問題が噴出して、強行しようとする政府の姿勢は許せない」という怒りの声も寄せられました。

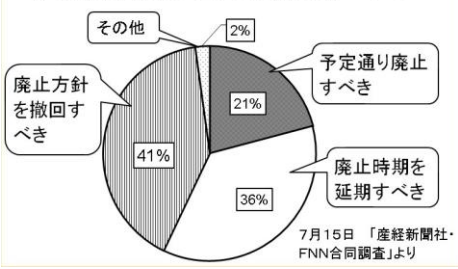
もの「(政府の説明は)何か変だよ。今のままでもいいのにね」「これまで通り、紙の保険証がいい」「共産党の言う通りだと思いません」など、署名に応じてくれた方々は不安や考えをそれぞれ語りました。



範囲で協力します」と、署名用紙を4枚も引き受けて下さる方も生まれています。今まさに署名活動をいっそう広く展開する時です。

読者の皆さん、ぜひ力をお貸し下さい。

健康保険証を廃止とする政府方針について



た世論調査では、「保険証の廃止」という政府方針に対して、実に77%の回答者が「廃止時期の延期」「廃止方針の撤回」と答え、「予定通り廃止すべき」の21%を大きく上回りました。

「国民皆保険」の要である「健康保険証」は、現行のままでも不自由はあり

共産党議員団 空知振興局交渉へ「給食費の無償化」を訴える



7月20日、岩見沢市の空知振興局で毎年恒例の党議員団主催「要求交渉」に参加しました。

岩見沢(山田議員)、美唄(吉岡議員)、長沼(藪田議員)、栗山(重山議員)、南幌(熊木議員)、そして、夕張からは櫻井議員の合わせて6名が参加。

福祉、環境、総務、商工、交通、農業、土建、教育に分けて計23項目の交渉を行いました。

要求項目としては、子ども医療費無料化、加齢性難聴者の補聴器購入への助成、マイナンバーカードへの健康保険証一体化の中止など。

夕張からは「小中学校の給食費の無償化」を要求しました。

財政再生団体である夕張市の光熱水費の現状と、全会一致で「給食費の無償化について」の意見書が採択され、多くの市民からの期待されている旨を伝え、国や道主体で少しでも早く実現できるように強く訴えました。

夕張市の要求は他に「道道1008号線の開通」「鹿島林道の早期復旧」で、来月の道交渉で改めて議員団での要求実現に向け準備中です。

市政懇談会あつやトーク 市内6か所で開催

今月10日、21日、27日、28日、29日、30日の6日、市内6か所で市政懇談会を開催され、1000人を超える市民が参加しました。

市民からの意見や質問の一部をご紹介します。

▼現在で道内20の小中一貫校があり、例えば安平早来学園では「日本一の公教育」とうたっているが、夕張としての独自のプランはあるのか？もつと踏み込んだ考えを聞かせてほしい。

教育長↓先進地域の課題もすっかりと参考にしていく。学びがより充実するよう9年間を通して「ウエルビーイング」(生徒が全てにおいて満たされた状態)を目指す。

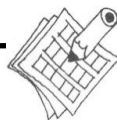
市長↓10月からの実証実験でご意見をいただきながら使いやすいものに変えていく。夕張市だけで運営するデマンドは、国からの補助が目減りしており、財源不足。本数を減らすのは全体の利用者の使いやすいさからみても難しい。近隣の町と情報交換と共有をこれから行っていく。

▼レースイヤシューパロのホテルは閉鎖している。市として宿泊施設を建設できないのか。

市長↓財政再生計画の中で、観光施設はつくらないと明記しているため、ホテル再開を働きかけている。



市政懇談会の様子。市民からの意見や質問を聴き取り、市政の改善につなげる。



くずさんの 夕張歴史散歩(197)

炭鉱の日々の暮らし (炭住①)

煙にかすむ炭鉱長屋

炭鉱の一日は、六時のボー*で始まります。これより早く一番方*の炭鉱夫のために、学校に通う子らのために、朝餉の支度が始まります。

谷あいの両斜面に段々と建てられた十軒長屋の炭住の10本の煙突からは、石炭ストーブの煙が一斉に立ち上り、煙の靄が立ち込め下部の炭住を覆います。さしずめ現在ならば環境汚染・温暖化の最たるものとして非難されるでしょう。

炭鉱夫の住居

先に紹介したように、最初の炭坑夫の住居は「飯場」でした。高松や社光・丁末などに松尾飯場、橋内飯場などがありました。多く単身での集団生活でした。少したつと坑夫の定着のためもあり、「世帯持ち」の炭住ができます。

北炭夕張での最初の住宅(坑夫長屋)は、一番坑(後の千歳坑)周辺に建てられた「棟割長屋」でした。「コの一号」と呼ばれてきました。後にこの地域は丁末と呼ばれ、この一号長屋を取り囲むようにふた桁の番号の長屋が並んでいたと言われます。

「コの一号」は、丁末の象徴として何度も改修を重ねますが、老朽化激しく1972年(昭和47年)ついに廃家処分されました。

* ボー 炭鉱では、朝の6時、昼の12時、午後3時と一日3回(諸説あり、後述)全山にサイレンが鳴り響きます。通称ボーで通りました。

* 番方 炭鉱での労働時間は3交代制で、一番方は朝の7時から午後の3時まで、二番方3時から夜中の11時まで、三番方は夜の11時から翌朝7時までと、現場は24時間動いていました。



はたやま和也「かけある記」
元衆議院議員

はたやま 和也

世代を超えて、力をあわせて

先週、紙智子・岩淵友の両参議院議員と十五団体をまわり、実態や要望をうかがいました。民青同盟のみなさんとの街頭宣伝ではシール投票ボードを使って、青年との対話がはずみました。「岸田首相がひどいすよ」と語る高校生もいました。

物価高騰には手を打たず、人権無視の政治への不満も強い。マイナカード強制と健康保険証の廃止については話が止まりません。「病状や障害の程度など、人に知られたくない情報がある。情報漏洩(ろうえい)が怖い」という、障害のある方の言葉を重く受け止めました。命や健康、人権にかかわる大問題なのです。

病院の側からも「高齢者や障害者でうまく顔認証ができない人がいて、そのたびに職員が行く。はつきり言って、マイナ保険証は診療のジャマ」「機械の導入だけでなく、その後の更新費用もかかる。そのうえ情報のセキュリティ対策も病院の責任でと通知が来た」と不満が続々。政府の無責任さと現場への押しつけのひどさが、よくわかりました。

新型コロナウイルスの感染は続き、その対策費のうえに電気料金の値上げなどで、病院や介護事業所から「このままでは続けられない」と悲鳴があがっています。コロナ禍からの緊張や疲労などから、退職する医師や看護師も増えているといえます。

くらしを犠牲に軍事費を増やしている場合かと、あらためて腹立たしく思いました。

高校生が言う「岸田首相がひどいすよ」は、世代を超えた共通の思い。いっしょに力をあわせましょう。